

Gallery P A R C

GRAND MARBLE

PressRelease:2015.05.22

【お問い合わせ】

Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・パルク]

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル [グランマーブル] 店舗内2階

【Tel&Fax】075-231-0706 【Mail】info@galleryparc.com 【HP】http://www.galleryparc.com

# LAND e SCAPE

Tani-Q

谷 穹

2015年6月2日[火] — 6月14日[日] 11:00~19:00 \*月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで



【広報画像01】  
本展DM使用画像

谷穹  
信楽甕  
写真 杉本賢正

©TANI-Q

# LAND e SCAPE

## Tani-Q

### 谷 穹

2015年6月2日[火] — 6月14日[日] 11:00～19:00 \*月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで



ギャラリー・パルクでは、6月2日[火]から6月14日[日]まで、谷穹による個展「LAND e SCAPE」を開催いたします。

信楽にて製陶業を営む清右衛門陶房に生まれた谷穹(たに・きゆう / 1977年・滋賀県生まれ)は、2000年に成安造形大学立体造形クラス卒業後、彫刻家中ハシクシゲ氏のアシスタントとして国内外の展覧会に同行するなど、おもに彫刻や立体造形による作品を制作していましたが、2002年ごろより本格的に陶に取り組み、現在は14世紀から15世紀の中世、室町時代に信楽で作られていたいわゆる「古信楽」の壺や甕などを指標として作品を制作しています。

文献など残る資料が少なく、その焼成方法など現在も分からない点が多い古信楽ですが、谷穹の成す焼き物に見られる特有の土味、自然釉によるビードロ釉の発色、穴窯や登窯によるカセ・コゲなどの諸相は古信楽の持つ特徴的な要素に迫るものであり、谷穹は焼成温度や期間などに試行錯誤を加え、時に自ら窯を築きながら、一歩ずつ近づきはじめています。

しかしながら谷穹は「見た目寸分違わぬ古信楽の再現」を目的とするのではなく、むしろこれまでの現代美術的な作品制作や作陶を通じて得た作品への見立てや仕組みを投影する上で、古信楽の持つ力強さと「遊び」がなにより重なる点が多いことを動機として、古信楽への探求を進めているといえます。

一樣ではない様相(景色)がうつわや甕という物質に一元化された「やきもの」は、いわば機能と共に「遊び」を含み持つ、あるいは存在そのものが「遊び」であり、そこに多様な視点の在り方を示すとともに、鑑賞者がその遊びに加わる中で様々な景色を見出すことを促します。同時に空間に配された「やきもの」は、時に空間の中心として、あるいは空間の異端として存在しながら、そこに在り方(景色)をつくりだします。しかし、そこでも「やきもの」は、ひとつの固定化された景色のみを示すのではなく、鑑賞者によって異なる景色を見出すことを求めます。

やきものを「遊び」として、そこに鑑賞者の存在を必然と考える谷穹は、「古信楽」に見るこうした様相(景色)をやきものとして目指すとともに、自身のやきもの(在り方(景色))へもその意識を向け、やきもののある空間を、ひと・もの・ま(空間)の相対的・相互的作用の働く場ととらえ、鑑賞者の「遊び」を誘うための「仕組み」を「しつらえ」として提示します。

谷穹による甕、壺や蹲(うずくまる)などのやきものを展観する本展では、その会場で鑑賞者の「遊び」を誘う「仕組み」がしつらえられ、鑑賞者は時に能動的に、時にやきもの(在り方(景色))に行動を促されながら空間に遊ぶこととなります。やきものとしての「器(うつわ)」とともに、その仕組みを含み持つ「空間(うつわ)」を見せる本展では、鑑賞者の皆様には、目の前の景色(LANDSCAPE)に遊ぶうち、ふと気がつけばまるで別の場所に外れる(ESCAPE)かのような体験をお楽しみいただければ幸いです。



## LAND e SCAPE

Tani-Q

谷 穹

2015年6月2日[火] — 6月14日[日] 11:00~19:00 \*月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで



【広報画像02】

本展のイメージとなるドローイング

©Tani-Q

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 LAND e SCAPE

出品作家 谷穹 【 <http://tani-q.wix.com/works> 】

会期 2015年6月2日[火] — 6月14日[日] 11:00~19:00 \*月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

主催 Gallery PARC

料金 無料

内容 信楽にて作陶を続ける若手陶芸家・谷穹(たに・きゆう)による個展。独自の試行錯誤によって古信楽の持つ特徴や風合いを再現した甕や壺、蹲(うずくまる)などのほか、花や茶を取り込んだ展示により、鑑賞者に行動を促すしつらえを提示する。

会場 Gallery PARC[グランマール ギャラリー・パルク] 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル

アクセス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。三条通・御幸町通の交差点北西角[グランマール]店舗内2階

問い合わせ Gallery PARC (正木・永尾)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル [グランマール] 2F

【Tel&Fax】075-231-0706

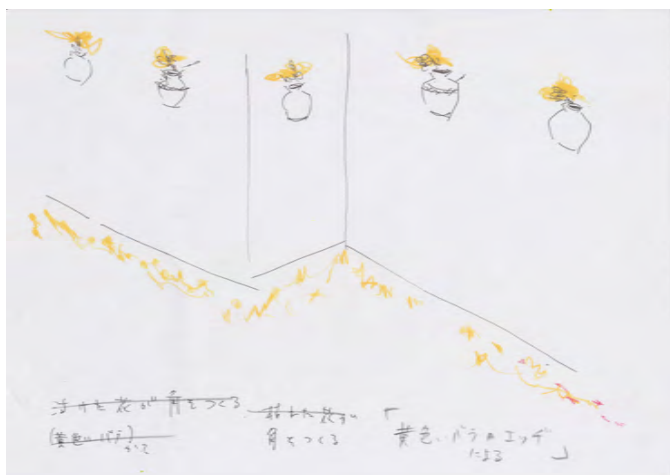
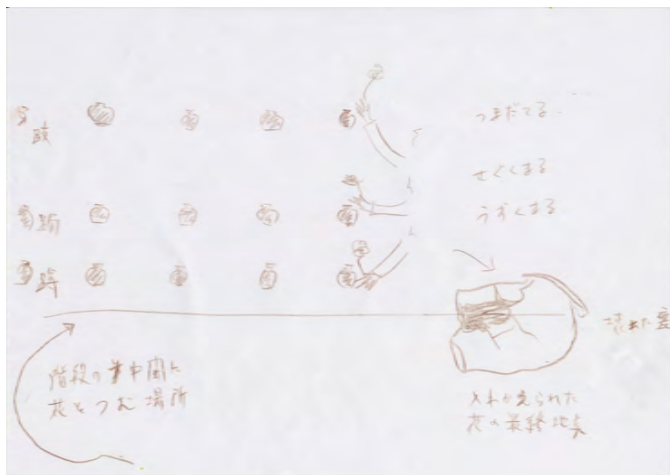
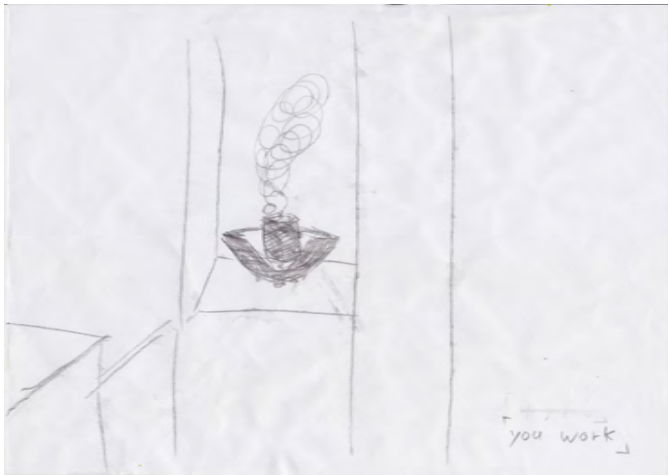
【Mail】info@galleryparc.com

# LAND e SCAPE

Tani-Q

谷 穹

2015年6月2日[火] — 6月14日[日] 11:00~19:00 \*月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで



【広報画像03・04・05】

本展のイメージとなるドローイング

©Tani-Q

この展覧会にあるものは「うつわ」です。

花を選び摘み、いれものを選び、場所をつくって生けます。

「ゆ」は人により茶になることもあり、なにもなければ、蒸気となり消えます。最後にあるものは、日常の景色です。

すべては人の介在によりかたちを変えます。そして人は体を使って鑑賞することになります。

「no you」の空白をうめるとき、鑑賞者は、干渉者となります。

床に散る花片は、人が生けたからこそ現われます。

朽ちた何かは他人の行為を排除したことによるものです。

残り香は、人が花を移動させたり、茶を楽しんだ後のものかもしれません。

それらの行為に出会い交わることもあるでしょう。

干渉しあうことで、壺の景色もあなたの色に染まることでしょう。

私の要素は「壺」である

「壺」の妙は「壺」でしかないことである

「壺」とは何も表現しないものである

ゆえに それはいつまでも不完全で不確定なものである

季節とともに移ろい持ち主とともに枯れる

壺のない国はない

壺はその土地の風土によって大きく変化する

壺はその国の歴史そのものである

その中でも

無骨で粗雑にも見て取れる端正なつくりや

自然釉による独特の景色を持つ信楽の壺は他に類を見ない

存在そのものが「遊び」であるといえる

私のもうひとつの要素は「仕組み」である

くぐる またぐ かがむ よける ちかづく

のぞく すわる にじる さわる みあげる

場が鑑賞者の行動を提供する仕組みは

茶事などにもおおいに利用されてきた

場に与えられた行動は滑稽であり人間的である

仕組みの中において壺は器であり空(カラ)である

空間の中心であり彼岸である

私の仕組みの要素は壺さながらの不完全さにある



# LAND e SCAPE

Tani-Q

谷 穹

2015年6月2日[火] — 6月14日[日] 11:00~19:00 \*月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

【広報画像06・07】

信楽罍壺

©Tani-Q



谷 穹 Tani Q

1977年滋賀県生まれ。祖父は谷清右衛門。2000年成安造形大学立体造形クラス卒業後、彫刻家中ハシクシゲ氏のアシスタントとして国内外の展覧会に同行。2001年より北村器山氏の次男北村寿三氏にロクロの指導を、長男二代目器山氏に穴窯の指導を受ける。その後、家業の清右衛門陶房に勤務。2007年中世の信楽に多く見られる双胴式穴窯を築窯するが迷走、毎年改良した末、2012年現在の単室式穴窯築窯。室町時代の信楽の壺について考察中。

コレクション 2014年 《信楽 大壺》(2014年制作) ポートランド美術館(アメリカ)

主な個展 2005年 「不在庵」ギャラリー陶夢(滋賀)  
2006年 「小路苑」小路苑(東京)  
「LAND e SCAPE」成安造形大学ギャラリーアートサイト(滋賀)  
2007年 キュレーターズアイ「LAND Re SCAPE」ギャラリーマロニエ(京都)  
2008年 「Gundaroo」Old Saint Lukes Studio Gallery(オーストラリア)  
2013年 「谷穹展」ギャラリー陶園(滋賀)  
「LAND e SCAPE」滋賀県陶芸の森 陶芸館ギャラリー(滋賀)

グループ展 2015年 「これからの、未来の途中 — 美術・工芸・デザインの新鋭11人展」  
京都工芸繊維大学美術工芸資料館

その他 2007年に双胴式穴窯を築窯  
2012年に単室式穴窯を築窯  
2014年に「大学美術館を活用した美術工芸分野新人アーティスト育成プロジェクト」



【広報画像08・09】  
「LAND Re SCAPE」  
ギャラリーマロニエ  
会場風景



【広報画像10・11】  
「LAND e SCAPE 現代のシツラエ」  
滋賀県陶芸の森 陶芸館ギャラリー  
会場風景